I am Jazz!（ジャズ・スーパー列伝）

ジャズの発展に貢献し、その歴史に名を刻んだ名プレイヤーたち。その人生は、楽器が異なる如く千差万別。このコーナーでは、そんな個性的なジャズマンたちの功績を称え、生き様を紹介することで、より多くの人々にジャズの素晴らしさを伝えていきたい。

Vol. 28
Red Garland【レッド・ガーランド】
～元プロボクサーの名ジャズ・ピアニスト～

Photo: Complete Studio Recordings / Red Garland-Paul Chambers-Art Taylor Trio (Solar Records 4569877)

Profile

1923 年 5 月 13 日、米国テキサス州ダラスで生まれる。本名は William McKinley Garland。最初は 17 歳の頃にベニー・グッドマンのファンだった父親からプレゼントされたクラリネットを吹いていた。その後ボクシングに興味を持ちはじめ、41 年に入隊。入隊後にアルト・サックスを手にし、後にピアノに転向。同時にボクシングも続け、後に伝説のチャンピオンとなるシュガー・レイ・ロビンソンとも一戦を交えたことがあるほどの腕前を持っていた。除隊後にライト級のプロボクサーとなり、計 30 戦以上を闘った。好成績を残しながらも、20 歳の頃にボクサーの道を諦めて音楽の道を選択。45 年にホット・リップス・ペイジのバンドに参加。翌 46 年頃にビリー・エクスタインのバンドに参加。47 年からフィラデルフィアの「ダウンビート」のハウス・ピアニストとなり、以降チャーリー・パーカーやコールマン・ホーキンス、ファッツ・ナヴァロ等と共演を重ねる。55 年秋にマイルス・デイヴィスのクインテットに参加し、一躍名を馳せる。また、自身のトリオでも名盤『グルーヴィー』等のアルバムをリリースし、58 年マイルスのクインテットから脱退後は自己のトリオで活動。59 年に短期間だけマイルスのクインテットに復帰するが、62 年以降は半引退状態となる。70 年代は地元のクラブに時々出演する程度の活動を行っていたが、77 年にギャラクシー・レーベルと契約し、復帰を果たす。その後 10 枚ほどのアルバムを発表。78 年に『ライヴ・アンダー・ザ・スカイ』出演のために初来日を果たし、80 年には 2 度目の来日を果たした。名前となった“レッド”の由来は、髪の毛を赤茶色に染めたことがきっかけだったそうだ。1984 年 4 月 23 日、心臓病のため死去。享年 60 歳。

RG's Great Album

特に自身のトリオで数々の名盤を生み出したレッド。この 3 作品以外にも『ザ・P.C. ブルース』『レッド・イン・ブルースヴィル』『レッド・ガーランズ・ピアノ』等も秀逸。

「C ジャム・ブルース」の名演と共にレッドの代表作と称される名盤

グルーヴィー
レッド・ガーランド・トリオ
（ユニバーサル・ミュージック : UCCO-5005）

レッド・ガーランド (p)、
ポール・チェンバース (b)、
アート・テイラー (ds)

1. C ジャム・ブルース 2. ゴーン・アゲイン
3. ウィル・ユー・スティル・ビー・マイン？
4. 柳よ泣いておくれ（他、全 6 曲）

1956-1957 年録音。とにかく一曲目の「C ジャム・ブルース」が決定的にグルーヴィーで素晴らしいアルバムとして知られるが、他の収録曲もけしておろそかにはできない魅力満載の一枚。マイルスのクインテット在籍時ながら、ボス＝マイルスの目を盗むが如く、思い切り羽根を伸ばすように躍動するレッド。レッドはこのアルバムで自身のピアノ・トリオの名声と地位を確立した。ポール・チェンバースのベース・ラインも最高！

レッドには珍しくコンガを導入しよりグルーヴィーさも際立つ快作

ロホ
レッド・ガーランド・トリオ
（ユニバーサル・ミュージック : UCCO-9915）

レッド・ガーランド (p)、ジョージ・ジョイナー (b)、チャーリー・パーシップ (ds)、レイ・バレット (conga)

1. ロホ 2. ウィ・キス・イン・ア・シャドウ
3. ダーリン・ジュ・ヴ・ゼム・ボクゥ
4. ラルフ J. グリーソン・ブルース（他、全 6 曲）

1958 年録音。自身のトリオ・アルバムで多くの名盤・名演を残しているレッドにとって、遊び心も感じさせるファンキーな一枚。ロホ（Rojo）とは、スペイン語で赤（Red）の意味で、ジャケットのレッドの表情もいい。ジョージ・ジョイナー (b)、チャーリー・パーシップ (ds) とのピアノ・トリオの魅力とレイ・バレットのコンガが加わった時のグルーヴ感＆スイング感が最高で、そのメリハリも心地良い隠れ名盤的アルバム。

長いブランクを経て見事復活を果たしたレッドの晩年のライヴ盤

グルーヴィン・レッド
レッド・ガーランド・トリオ
（現在廃盤）

レッド・ガーランド (p)、
フィリー・ジョー・ジョーンズ (ds)、
リロイ・ヴィネガー (b)

1. ストレート・ノー・チェイサー 2. オンリー・ユー 3. ネヴァー・レット・ミー・ゴー
4. 我が恋はここに（他、全 9 曲）

レッドが復活後の 1977 年 5 月にサンフランシスコの「キーストン・コーナー」で行われたトリオでのライヴを収録したアルバム。ベースは本誌由来のリロイ・ヴィネガー。ドラムはマイルスのクインテットでしのぎを削った盟友フィリー・ジョー・ジョーンズ。レッドが 54 歳の頃の演奏だが、全盛期の頃と変わらぬグルーヴ感やレッド節も冴え渡り、フィリー・ジョーのドラムとリロイのウォーキングとの愛相性もいい。全 9 曲収録。

元プロボクサー

元ライト級のプロボクサーで計 30 戦以上を闘ったレッドは、プライベートではマイルス・デイヴィスとも親しく、多くの評論家やファンが全階級を通じて“史上最高のボクサー”と認める伝説のボクサーで元世界ミドル級＆ウェルター級チャンピオン＝シュガー・レイ・ロビンソンとも一戦を交えた経歴を持つほどの男。ジャズとボクシングには似た要素を感じるが、レッドの他にボクシングを嗜んだジャズマンには、マイルスをはじめ、サニー・マレイ (ds)、バーニー・カミンズ (ds)、ジョー・ザヴィヌル (p, thnth)、クリスチャン・マクブライド (b) 等がいる。

ミスター・グルーヴィー

レッドの代表作のひとつ『グルーヴィー』を筆頭に、『レッズ・グッド・グルーヴ』『グルーヴィン・レッド』というアルバムも秀逸で、“ブルージー”なウィントン・ケリーのピアノと並んで、“グルーヴィー”＝レッドのピアノという印象が強い。1955 年秋から 58 年春までマイルスのグループで活躍し、59 年には短期間ながら復帰も果たしたが、元々マイルスにピアニストとしての腕前よりボクサーとしてのキャリアを買われたレッド。それを見返すべく反骨精神とプロボクサーならではの独特の間やリズム感からあの独特のグルーヴ感が生まれたのかもしれない。

Jazz Standards（ジャズ名曲列伝） Vol.1

~ All The Things You Are【オール・ザ・シングス・ユー・アー】~

この曲は 1939 年にジェローム・カーン（作曲）とオスカー・ハマーシュタイン二世（作詞）が、ミュージカル『ヴェリー・ウォーム・フォー・メイ』のために書いた曲。「君は我がすべて」という邦題があるが、そのまま英語の曲名をカタカナ読みされることが多い。最初のジャズ録音は 1945 年のディジー・ガレスピー＆チャーリー・パーカーのギルド・セッションと言われているが、現在も多くのアーティストに愛され続けているスタンダード・ナンバーだ。

★ この名曲が聴けるお薦めのアルバム

チャーリー・パーカー『ジャズ・アット・マッセイ・ホール』
ジョー・パス『ヴァーチュオーソ』
『サラ・ヴォーン＆ザ・カウント・ベイシー・オーケストラ』
キース・ジャレット・トリオ『オール・オブ・ユー』
パット・メセニー『クエスチョン・アンド・アンサー』